

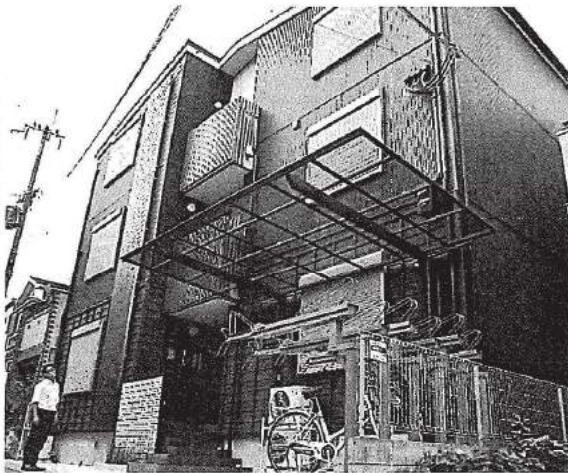
省エネ住宅 販売伸ばす

京滋のメーカー、国補助追い風に

京都、滋賀のハウスメーカーや工務店などが、省エネルギー性能を高めた住宅や製品に力を入れている。太陽光発電や効率的な空調設備、自然光を生かした照明器具などで電力消費量を低減。省エネ意識の高まりや国の補助制度などの追い風もあり、販売を伸ばしている。

住宅施工販売のロイヤル住建(京都市山科区)は、3年前から「ゼロエネルギー住宅」の施工・販売を手掛けている。同住宅は、断熱性の高い建材を使ったり、

ロイヤル住建が建築した3階建てマンション。消費電力を抑える設計を取り入れ、入居者の電気料金を無料にした(京都市山科区)



太陽光、断熱材生かす

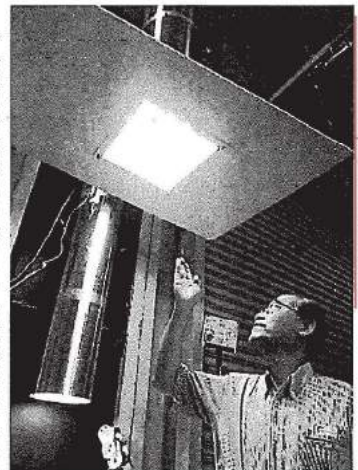
太陽光発電などで電力を賄ったりして実質的なエネルギー消費量をゼロにするのが特徴だ。同社は地熱で暖められた空気を取り込んで屋内で循環させ、消費電力の大きい空調の利用を抑える独自工法を導入。「空キレイスム」と銘打ち、太陽光発電と合わせて売り込んでいる。

これまでに約10戸を施工した。岡田正幸社長は「環境に優しく何より経済的」と強調する。4月には太陽光発電を備えた省エネ型の3階建て賃貸マンションも建設。電気代が無料のため、入居者の間で好評という。

政府は住宅の省エネ化を推進している。2020年までに新築住宅などの省エネ基準の適合を義務化し、新築住宅の過半をゼロエネ住宅とする目標を設定。太陽光発電や蓄電池の購入に対する補助制度を設けたことから、大手ハウスメーカーや地場の工務店も販売に力を入れ始めた。

京都市北区の工務店「g.a.r.d.e.n.」は、日光や風といった自然エネルギーを生かす建物構造や、断熱性能が高い材料を取り入れた住宅を施工販売している。これまでに国の補助金を受けてゼロエネ住宅5棟を建てた。

太陽光を取り込む井之商の照明設備「スカイライトチューブ」(草津市)



竹園節子専務は「省エネ性能は今や住宅選びの基本。省エネを追求すれば、冬暖かく夏涼しい居心地の良い住宅になる」と説く。省エネをテーマにした説明会も開いている。

省エネ化の流れは、住宅関連設備にも波及している。照明設備の開発や販売を手がける井之商(大津市)は、太陽光をそのまま取り込む「スカイライトチューブ」を04年に商品化。じわじわと需要が高まり、これまでに住宅用として4500台を販売した。

井上昇社長は「温暖化に伴う異常気象が当たり前になる中、節電や省エネにどんな手段があるかを考えるようになってきている」と話す。今後、人口減少で住宅の新築件数が減る半面、改築の需要は高まるとみており、「『採光リフォーム』を提案したい」と意気込んでいる。

(近藤大介)